

鵜川・沙流川流域委員会（第2回）議事要旨

■日 時：令和7年6月18日（水）10:00～12:30

■開催場所：むかわ温泉四季の館 1階 研修室A・B（WEB開催併用）

■出席者：中津川委員長、井上委員（WEB）、岩崎委員、木村委員、楠田委員、
小坂委員、鈴木委員、谷口委員（以上8名）※委員長以降の順は五十音順

■議 題：鵜川水系河川整備計画〔変更〕（原案）について

■議事要旨

【委員】

- ・ 目標流量の設定にあたって検討されたことなど、原案の記載を充実させてはどうか。
- ・ 環境整備・保全目標は文章が多くて分かりづらいため、各環境区分を代表する指標種の表を追加すると理解しやすくなるのではないかと。

【事務局】

- ・ 目標流量の設定について、全国的動向も考慮して記載内容を検討したい。
- ・ 指標種の表について、記載内容を検討したい。

【委員】

- ・ 森林が自然災害に果たす役割も含め、鵜川を育む森林の位置づけを記載してはどうか。
- ・ 洪水と津波が同時発生した複合災害等については考慮されているのか。

【事務局】

- ・ 森林保全は重要な視点であり、記載内容を検討したい。
- ・ 複合災害については、対応について自治体と話し合いながら取り組む必要があるが、能登半島地震では地震と洪水により土砂が流出し被害が拡大した事例もあることから、記載内容を検討したい。

【委員】

- ・ 河川環境の整備と保全に関する事項において、シシャモが産卵場として利用しているとの記載があることから、河床材料のモニタリングだけでなく土砂の供給源等の把握も含めてモニタリングし、その対策を含めて検討してはどうか。総合的な土砂管理を目標としているので、できる範囲で関係機関と連携して進めてほしい。
- ・ 気候変動に伴う日射量や気温の影響を受けてシシャモの仔魚が生息している浅場の水温が上昇することによってシシャモが受ける影響があるだろうし、餌であるプランクトンの発生状況が変化する可能性があることから、引き続きモニタリングを検討していただきたい。なお、室蘭に栽培水産試験場があり、沿岸でのシシャモの生態について調査を実施している

ので、そちらの専門家に相談されるとよい。

【事務局】

- ・ 上流部における土砂の供給源等の把握など、流域全体のモニタリングや対策は河川管理者だけでは難しいと考えている。
- ・ 具体的な取り組み内容については今後検討が必要であるが、流域上流には農業ダム、治山・砂防施設があり関係機関が事業を実施していることから、関係機関とも連携しながら全体的な土砂管理について考えていきたい。

【委員】

- ・ 流域治水対策について防災情報の提供とあるが、自治体への伝達だけではなく住民へ伝えることが大事なため、マイ・タイムラインの促進など自治体との協働についてきちんと記載してはどうか。
- ・ 情報網などの整備について、関係自治体等へ伝達できる体制整備とあるが、住民まで確実に情報が届くような体制整備という表現にしてはどうか。
- ・ リアルタイムでパソコンやスマートフォンなどに情報提供するとあるが、単に提供するだけでなく、危険の切迫度が伝わるよう努めて欲しい。

【委員】

- ・ 防災や減災の取組については、情報発信だけでなく、住民が適切に情報を受け取り、意識改革が図られたことを示す指標が必要であると考えているが、具体的な指標を考えているのか、もしくは何か想定されている事項があれば伺いたい。

【事務局】

- ・ 住民の意識変化を表現・把握することは難しいと考えているが、他の河川の事例では防災教育や訓練後の出水時における避難者数の把握やアンケート調査により、意識変化を確認できた事例もある。
- ・ 鵜川でも同様な方法で、効果を検証しながら自治体と連携して取り組んでいきたい。

【委員長】

- ・ 河川整備計画などの大規模な計画策定後も継続的なフォローアップの実施が重要であり、実際の災害時における住民の避難行動や危機管理の実効性が重要であることから、住民の意識変化に関するフォローアップを河川整備計画に盛り込むことは検討できないか。
- ・ 理念の打ち出しだけではなく、減災対策協議会等の枠組みを通じて適切に実施することを明記できるとよい。

【事務局】

- ・ 河川のハード整備は河川管理者が実施するが、それを上回る洪水は必ず発生するため、その際に住民が逃げ遅れないことが大切であり、地域住民にそういったリスクを自分事として捉えてもらうため、リスクコミュニケーションというキーワードを原案に盛り込んだところである。
- ・ フォローアップについて、記載内容を検討したい。

【委員】

- ・ 川は地域にとって重要な文化が育まれてきた場所であり、工事実施前に地域の人たちに適切に説明し意見を聞くことが重要であることから、工事の事前説明に関して記載してほしい。
- ・ 河道掘削の発生土砂について、農地のかさ上げなどの利活用だけではなく、良質な砂利が採取可能な川なので、砂利の活用など産業として成り立たないか考えてほしい。

【事務局】

- ・ 工事の実施に当たっては、町のみならず地域の方々にも状況が理解できるように、事前説明に関する記載内容を検討したい。
- ・ 砂利の活用について、河川環境の面から規制してきた歴史があるが、規制との兼ね合いを整理した上で検討したい。

【委員】

- ・ 「洪水等による災害の発生の防止または軽減について」とあるが、この表現に違和感を持った。本来は防止すべきことだが、最近の状況として想定を超える洪水に対して軽減を図ろうということだと思う。延長上のこととして捉え、「防止と軽減」という表現にしてはどうか。
- ・ 原案では生産空間の保全がうたわれており、下流域の市街地や農地を守ることになっているが、内水被害を想定する必要はないか。

【事務局】

- ・ 「防止または軽減」の表現については、記載内容を検討したい。
- ・ 過去に内水による被害が発生しているが、対策については流域治水の計画の中で位置づけられており、引き続き関係者と一緒に流域治水として取り組んでいきたい。

【委員長】

- ・ 写真は何年に撮影したものかを可能な限り明示した方がよい。
- ・ 広域防災対策・気候変動リスクへの流域治水の項目の中で、流域治水の項目が非常に矮小化されているように感じられる。流域治水は河川の改修や情報提供など全体を包括するもの

であることから記載ぶりを再考願いたい。

【事務局】

- ・ 写真について、可能な限り撮影時期を追記すると共に、流域治水の記載内容については検討したい。

以上